

二級河川梅田川多自然川づくり検討会議（第3回）

主要内容

二級河川梅田川の多自然川づくりにおいて、前回検討会議(R3.1.6)で設定した「河道計画の方向性（ポイント）」を基に作成した『河道計画（平面図、横断面図及び施設配置図）』及び『梅田川多自然川づくり計画』について、意見交換を行った。

会議概要

■日時 令和3年3月18日(水) 14時～16時30分

■場所 愛知県自治センター

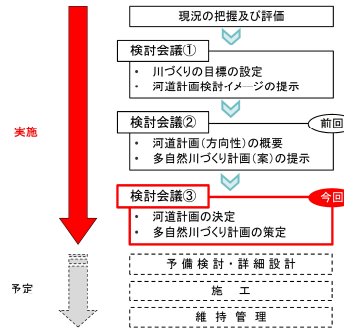
■構成メンバー（*事務局）

有識者、豊橋市河川課、愛知県*(河川課、東三河建設事務所)

■有識者

氏名・所属	分野
吉村 伸一氏（吉村伸一流域計画室 代表）	河川
長谷川 明子氏（ピオトープ・ネットワーク中部 会長）	環境
林田 寿文氏（土木研究所自然共生研究センター 主任研究員）	河川
坂本 貴啓氏（土木研究所自然共生研究センター 専門研究員）	地域連携

＜多自然川づくり検討の進め方＞



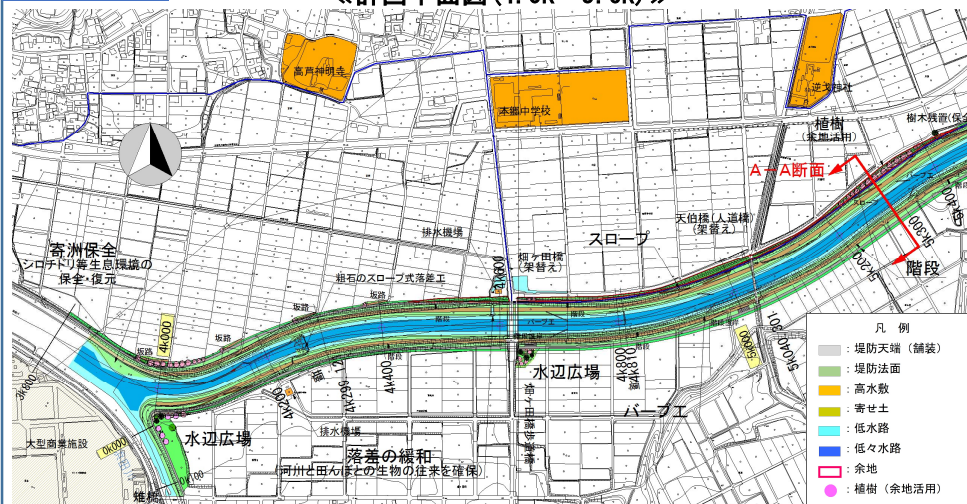
状況写真



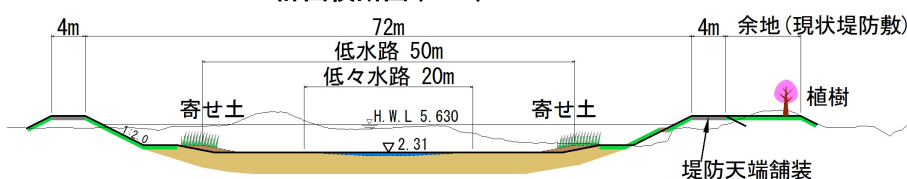
＜検討会議状況＞

河道計画

＜計画平面図(4.0k～5.6k)＞



＜計画横断面図(5.3k) A-A'＞



＜整備の主なポイント＞

- 低々水路の設置
⇒水路幅の拡大に伴う掃流力の低下や水深の低下に伴う草本類の繁茂対策として、低水路内に低々水路を整備する。
- 河道法線上の余地を活用
⇒河道改修に伴う法線変更により生じる余地を活用して、植樹を行うなど、良好な景観を創出する。
- 堤防天端の舗装
⇒堤体への雨水浸透抑制のため、天端舗装を行い、粘り強い堤防を整備する。⇒併せて、歩行者の利便性及び維持管理の向上を図る。
- バープエ
⇒流れが単調で、自然の営力では瀬淵の形成が困難な箇所に、バープエを設置
⇒設置位置は、iRICを活用し、河道改修後の河床変化を予測して、決定する。
- 水辺広場の整備
⇒治水上の弱点となり得る橋梁部などにおいて、堤内側に盛土で堤体を補強するとともに、植樹や休憩場などの水辺広場を整備する。
- 支川落差の緩和
⇒本川の河道掘削により生じる支川や樋管との落差を多段式スロープなどで緩和し、魚類の移動を確保する。

＜主な意見＞

- ・水際へのアクセスポイントを整備する際は、河床が侵食を受けて、深くなる箇所(淵)を避けるなど、安全面に特に配慮して場所を決めること。
- ・落差対策を施しても、実際に魚がのぼれない事例が全国で散見しているため、特に注意して、設計すること。
- ・バープエは、試験的に数カ所を実施し、様子を見て、効果の検証を行うとよい。
- ・このような取り組みにより、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を推進していく旨を計画に記載すべき。
- ・全国的にもこのような取り組み事例はないと思われるため、他の中小河川にも広がるようPRしてほしい。